



田中 廣
タナチョー
取締役社長

白神、常念、英国湖水地方 記憶に刻む山歩き

私の趣味は山歩き(いわゆるワングル・トレッキング)で、ロープ・ロッククライミングなしの山登り。中学生のころから始めて、今でも月1回程度、昔からの山仲間や社会人の同好会の仲間らと、高尾山から日本アルプスまで山行している。最近は、美しい景色・新鮮な空気を味わうことを第一に、自分のペースで山行し、悪天候の場合は即中止することになっている。

思い出の一つは、マタギの人に案内され、津軽の岩木川の支流にかかる白神山地・暗門の滝の先(現在は立入禁止?)から沢登りし、ナメ滝をスパイク地下足袋でサクサクと登り、滝を幾つも越え、奥まで行ったこと。誰もいない中、溪流の中を渡り、たくさんの滝水しぶきを浴び、自然との一体感を味わった。

友人と槍・穂高へも山行するが、思い出深い山行の一つに、2011年10月、当会関係者の古沢熙一郎氏、井口武雄氏、陳

野浩司氏も入っている山の同好会で、常念岳から蝶ヶ岳に向かって縦走したことである。ずっと天候に恵まれ、槍ヶ岳から穂高連峰に連なる大パノラマを横目に堪能しつつの縦走となった。写真は、常念小屋から槍ヶ岳をバックに撮ったもので、槍ヶ岳がくっきり写っているが、本当に槍に手が届くようだった。

また、2014年7月、同会のメンバーと、イギリスの北部湖水地方のコニストン湖を望む、コニストン・オールド・マン山、ウェザーラム山に山行してきた。児童小説家アーサー・ランサムが小説の舞台とした所で(実は私もその影響で山好きに)、絵のような美しさで有名な所である。プレート活動と氷河に造形された素敵な山々・山上湖を眺望し、ヒースとシダのじゅうたんを歩き、湿気のない爽やかな空気を胸一杯吸って来た。



誰もいない溪流を渡りたどり着いた
白神山地の滝



常念小屋では槍ヶ岳をバックに(後列左)



コニストン・オールド・マン山頂上より
コニストン湖を望む(左から2人目)